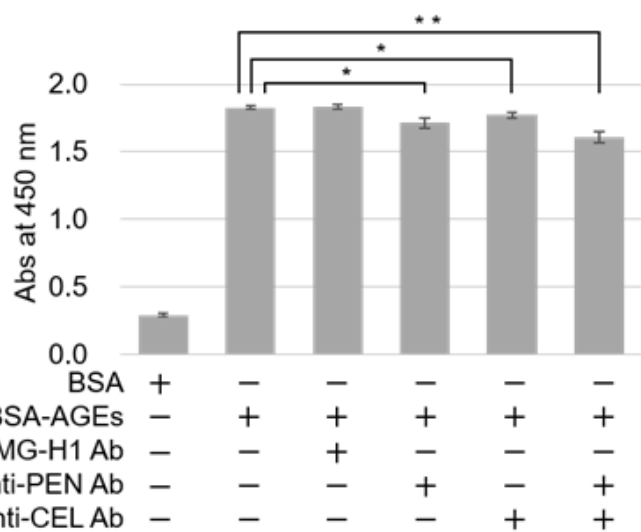
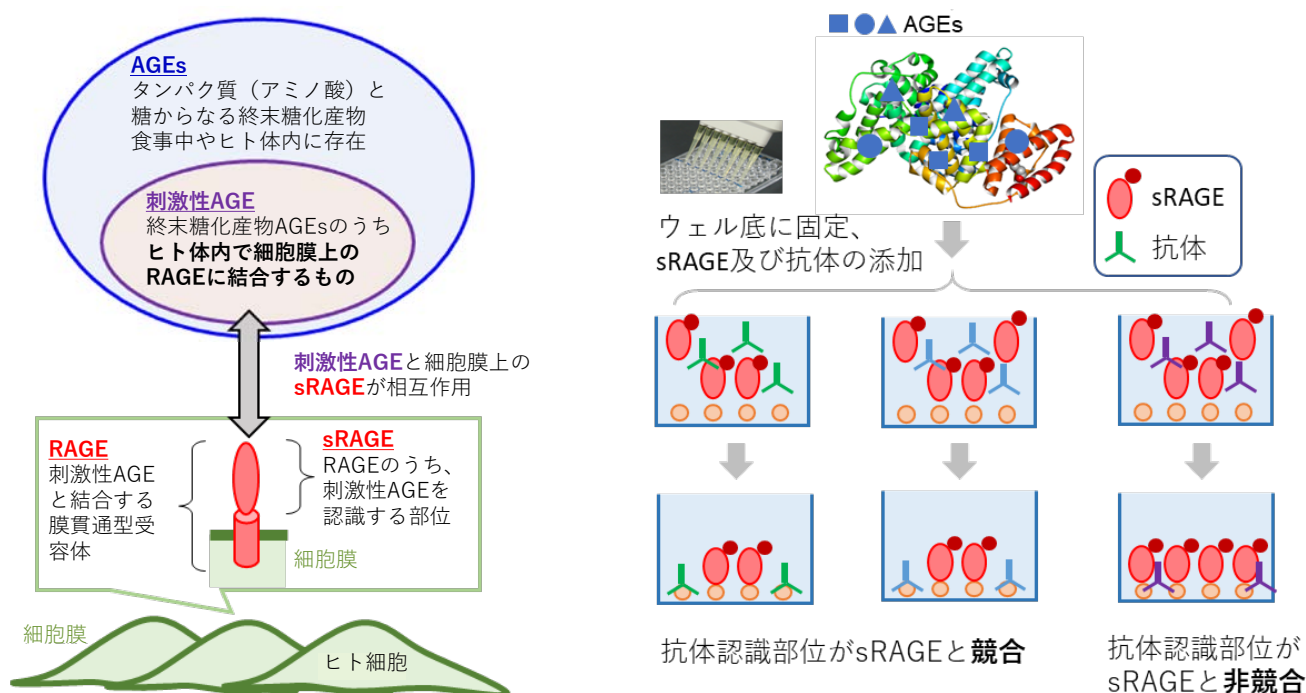


生体に影響しうる終末糖化産物の推定

－新手法の開発と活用事例－

成果の特徴

- 終末糖化産物 (AGEs) を、受容体 (RAGE) 及びAGEsの特異的抗体と競合的に反応させることにより、生体に影響しうる刺激性AGEsを推定する方法を開発しました。
- 食品や生体に含まれるAGEsのうち、少なくともカルボキシエチルリジン (CEL) 及びペントシジン (PEN) はRAGEとの結合性を示します。



成果の活用

本研究成果は、食品及び生体中のAGEsのうち、RAGEを介して生体に影響する分子種の推定に役立つと期待されます。

参考文献

Deepak GANESH, Kyoko TORIGOE, Miyuki KUMANO-KURAMOCHI, Sachiko MACHIDA, Toshiro KOBORI (2019) *Analytical Sciences* 35, 237-240.